

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成 28 年 1 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

本年もよろしく お願い申し上げます

高山赤十字病院病院長 棚橋 忍



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

当院が地域医療支援病院に指定されて4年が過ぎました。開業医の先生方、福祉、介護の皆さま方のご支援により、少しずつではありますが充実してきていると思います。

厚労省は団塊の世代が75歳以上になる2025年を念頭に、医療改革を推進しています。それは2025年頃に医療、介護の必要度が高まり、制度を変える必要があるからです。そのキーワードは①医療機関の機能分化、②医療機関の連携、③在宅医療です。当院は医療機能の分化の観点から、昨年10月地域包括ケア病棟を開設しました。この病棟は急性期を過ぎた患者さんが、退院まで療養期間を過ごしてもらう病棟です。療養期間が長くなる患者さんは急性期治療が落ち着いたあとにリハビリが必要な方は回復期リハビリ病棟かもう少し療養が必要な方は地域包括ケア病棟に変わって頂き、病期に応じた治療を受けて頂くこととなります。病棟を変える際は医師・看護師から説明を致し、患者さんに御理解を頂くよう努めています。

在宅医療に向けては今後地域包括システムの構築が考えられています。これは在宅にて療養するために必要な医療、介護、福祉を総合的に提供し、繰り返しの入院を防ぎ、在宅にて安心して暮らしていけるようにするものですが、今後地域にあったシステムを地域住民も含め作っていくこととなります。この時重要な点は開業医の先生方の協力が欠かせないと思います。当院は直接往診等の在宅医療を行ってはいませんが、在宅医療がスムーズにいくため、医療従事者の研修、病状悪化時の患者さんの受け入れを行ってまいります。

当院は地域連携を更に推進するためには当院からの情報提供をより多くの開業されている先生方に行う必要があると考えています。そのために患者さんにかかりつけ医を持ってもらうと同時に、診療科を超えて情報提供を進めています。たとえば整形外科にて治療中の患者さんが内科医院に糖尿病で通院中であれば情報提供を行うことにより診療のお役に立ちたいと思います。

本年も当院は人材の育成、高度医療機器の整備、また地域の医療従事者の研修等を通して、ふるさとを守る医療を実践して参ります。地域の先生方の御意見、ご支援をお願い致します。

目 次

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| ● 年頭挨拶 …………… 1 | ● 新任医師の紹介 …………… 6 |
| ● 診療科の紹介 …………… 2.3 | ● 退任医師 …………… 6 |
| ● 緩和ケア 医師研修会開催 報告 …………… 4 | ● 研修・講演・勉強会のご案内 …………… 6 |
| ● 飛騨地域緩和ケアセミナー開催 報告 …………… 4 | ● 平成27年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告 …… 6 |
| ● 第25回 飛騨在宅酸素療法研究会開催 報告 …… 5 | ● 編集後記 …………… 6 |

その1 泌尿器科

泌尿器科部長 柚原 一哉

<診療内容>

当科では泌尿器癌、排尿障害、尿路結石、尿路感染症の診断・治療を中心に3人の泌尿器科医が行っています。

主な泌尿器癌には腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌があります。腎癌・腎盂尿管癌においては手術侵襲を軽減できるよう腹腔鏡手術を導入、開腹手術と比べ入院期間も短縮しています。進行腎癌に対しては新規抗癌剤（分子標的薬）による治療を行っています。膀胱癌においては非筋層浸潤癌では経尿道的内視鏡手術（TUR-Bt）、筋層浸潤癌では膀胱全摘除+尿路変更術、進行癌では化学療法で治療しています。前立腺癌においては限局癌に対し開腹手術、強度変調放射線治療（IMRT）にて根治治療を行っています。進行癌に対しては内分泌療法を行っており、内分泌療法が無効となった去勢抵抗性前立腺癌に対しては抗癌剤、新規内分泌療法剤による治療を行っています。

排尿障害においては薬物療法を中心とした保存的治療を行っています。薬物療法抵抗性の前立腺肥大症に対しては経尿道的前立腺切除術（TUR-P）を行っています。

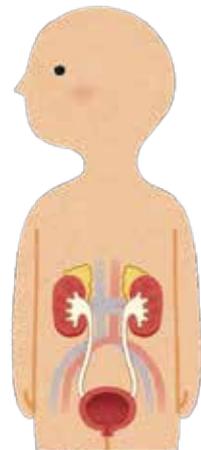
尿路結石においては自然に排石期待できない症例には体外衝撃波結石破砕術（ESWL）、レーザーを用いた経尿道的内視鏡的碎石術（TUL）を行っています。

尚、当院で施行できないロボット支援手術や尿失禁手術に関しては、他施設へ紹介しています。

<地域の先生方へのお願い>

多くの泌尿器科手術が飛騨地区で当院でしか施行できないため患者様が集中し、外来待ち時間が長く患者様にご迷惑をおかけしています。つきましては排尿障害などで保存的治療で安定している患者様を紹介させて頂くことがあります。その際はよろしくお願い申し上げます。

また月曜日午後、木曜日は手術日のため緊急性のある患者様以外は診療できませんのでよろしくお願い申し上げます。



診療科の紹介

その2 外科

第二外科部長 佐野 文

当院では、食道以下直腸・肛門に至る全消化管（胃・小腸・虫垂・大腸・肛門）並びに肝・胆・膵等実質臓器全般に及ぶ消化器疾患の手術をはじめとして、乳腺等の内分泌腺あるいは肺・縦隔・末梢血管（動脈瘤・静脈瘤）等の一般外科手術も広く手掛けています。必要に応じて、大学病院・癌専門病院と連携して患者さまにとって最も良いと考えられる治療法を選択していきます。治療方針は、患者さまのご希望を重視し、内科・放射線科・病理部・薬剤部・栄養課との定期的カンファレンスにおける総合的判断のもとに決定します。

なお、当地域唯一の救命救急センターが併設されていることも相俟って、外傷を含めた緊急手術が多い特色を有しています。

手術症例数は年間約500例であり、うち約4分の1は緊急手術例です。

手術の基本方針として、手術時間短縮と出血量減少による手術侵襲負担の可及的軽減を図りつつ、症例ごとに根治性と機能温存の重みを十分に検討し、適正な手術術式選択を心掛けています。近年、肺部分切除、胆嚢摘出、幽門側胃切除、結腸・直腸切除などを鏡視下手術で積極的に行っています。また他の低侵襲な手術が可能な疾患でも腹腔鏡手術を行っております。当院外科スタッフは8人ではありますが、当院を受診された方が「安全と安心と納得の医療」を「明るく楽しく心地よい環境」で受けただけのように日々の精進を重ねております。また手術適応のない進行再発癌（胃癌、大腸癌、乳癌、胆道系の癌、膵癌）、術前に腫瘍を小さくしてから手術を行う術前補助化学療法、術後再発のリスクをさげる補助化学療法を外来点滴室で日帰りの抗癌剤治療を行っております。今後も地域の高次医療機関として地域の医療機関との連携をとっていきたいと考えております。



第7回飛騨地域緩和ケア研修会開催 報告

平成27年10月24日(土)・25日(日)

企画調整課長 登林 正規

平成27年10月24日(土)・25日(日)の2日間にわたり、高山赤十字病院診療本館3階大講堂にて「第7回飛騨地域緩和ケア研修会」を開催しました。当研修は「地域がん診療連携拠点病院」である本院がその関連事業として、毎年計画的に開催しているものです。研修は講師(ファシリテーター)として本院の医師4名の他、飛騨市民病院院長の黒木嘉人先生、久美愛厚生病院心療内科医長の安藤寿博先生を招聘したチーム飛騨の陣容で、医師12名・歯科医師1名・薬剤師1名・看護師3名と4職種合計17名が受講しました。研修では2日間を通じて、グループワーキングが5項目織り込まれていました。「オピオイドを開始するとき」・「コミュニケーション」各項目でのロールプレイでは、参加者が交替で複数の役割を熱演しました。2日間とも朝早くから夕方までのハードな研修でしたが、一人の脱落者もなく、研修終了後17名の受講生全員に修了証書が授与されました。今回は本院の副院長2名の参加もありました。本院で未受講の先生方には、来年度是非とも受講していただきますよう紙面を借りてお願い申し上げます。



飛騨地域緩和ケアセミナー開催 報告

平成27年11月14日(土)

医療社会事業部長 浮田 雅人

平成27年11月14日(土)、高山赤十字病院講堂で、がん緩和ケアにかかわるすべての職種の方を対象に開催しました。参加者は48名でした。

①岐阜県がん療養サポートパス(緩和パス)

緩和パスは、岐阜県がん診療連携拠点病院協議会緩和医療専門部会で検討され、2015年4月から運用が始まっています。外来患者6名のアンケート結果では、緩和パスに対する患者の評価は概ね肯定的でしたが、患者や家族によって緩和ケアパスに対する思いが異なることから、緩和パスを運用する前から、患者、家族、医療者の間の良好な関係構築が望ましいことがわかりました。この内容は2016年6月の第21回日本緩和医療学会学術大会(京都)で発表する予定です。

②生活のしやすさに関する質問票

緩和ケア週間(10/5~9)に集まった65名分の質問票から、患者が抱える多様な問題を把握できることがわかりました。それらの問題点をスタッフで共有し、多職種で対応することが重要です。

③痛みの評価シート

過去1年間で、のべ51人に対して、1回の入院で平均2.8回の評価がされていました。内科、泌尿器科、外科、産婦人科、耳鼻科などがん患者の入院が多い病棟で広く使われていました。



第25回 飛騨在宅酸素療法研究会開催 報告

平成 27 年 12 月 5 日 (土)

飛騨在宅酸素療法研究会 代表世話人

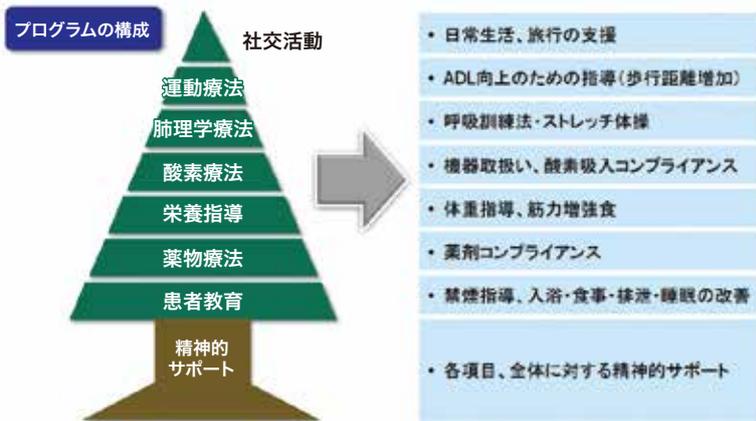
高山赤十字病院副院長 兼 呼吸器科部長 西尾 優

本年度も平成27年12月5日(土)、飛騨・世界生活文化センターにおいて同研究会を開催致しました。総勢104名の方のご参加を頂きました。一般演題：1題、パネルディスカッション：『飛騨地域における包括的呼吸リハビリテーションを見つめなおして～それぞれの職種から、これだけはいいたい～』と題し、各職種（医師、看護師、理学療法士、薬剤師、訪問看護ステーションスタッフ、臨床工学士、栄養士）から8題のご発表を賜りました。

本邦において、1986年保健適応となり在宅医療のさきがけとして産声をあげた在宅酸素療法（HOT）と、当研究会は、その5年後1991年（平成3年）に発足し、本年で25年四半世紀を迎えました。振り返るとパネルディスカッションのテーマからは、その時々飛騨地域の課題が浮き彫りにされてきます。即ち、①HOTがまだ医療者にも社会的にも認知されていない淋しい時期②HOTの弊害、かえって活動制限されマイナスイメージ、プラスイメージへと考え行動した時期③呼吸リハビリテーションマニュアル ～運動療法が上梓され、エビデンスに基づいて在宅呼吸リハビリテーションの意識を高めた時期④HOTの本質、病院から在宅そして社会へ、欠かせぬ地域連携体制構築を模索した時期⑤更なる地域連携、退院調整と在宅支援の充実をはかった時期、そして、前回第24回は、2025年にむけた地域医療構想における中心的概念である地域包括ケアシステムを考え、飛騨地域におけるHOTの未来像をディスカッションし、「在宅呼吸ケアには、病院と同様、開業医の先生にも、呼吸ケア（医療と介護と予防と生活支援）のチームを作ってもらうことを目指す」を目標としました。以上のような背景を受け、今回のテーマを選択し、演者の方々には、キーワードとして『モチベーションと継続性』を意識してご発表頂き、目指すところは『病院の包括的呼吸リハビリテーションから地域を意識した包括的呼吸リハビリテーションへ』とし、この地域の認識の共有化を図ることとしました。今後、病院と開業医の先生方とのコラボレーションした包括的呼吸リハビリテーションを飛騨地域で展開していきたいと思っておりますので何卒宜しくお願い致します。また、特別講演は、『COPDの身体活動性について』と題して、京都大学の室 繁郎先生からご講演を賜り、「COPD患者さんの予後を規定する因子として身体活動性がきわめて重要である」ことを再確認させて頂きました。このことは、COPD患者さんのみならず、全ての人において、人間らしく、いきいきと生きていくうえで極めて重要なことと考えます。包括的呼吸リハビリテーションのキーワードは『モチベーションと継続性』であり、これは、患者さん、ご家族のみならず、我々医療者、介護者のキーワードであるとも考えています。今後とも関係者皆様のご協力とご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

包括的呼吸リハビリテーション

高齢者患者が多く占めるCOPDは、肺のみならず全身的な影響をもたらす病態
→ 包括的な対応が必要であり、在宅酸素療法はプログラムの一貫として実施される



呼吸16巻 1号(1997) 包括的呼吸リハビリテーションの概念

新任医師の紹介

1月に1名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。

- 1 診療科・職名
- 2 氏名
- 3 専門分野
- 4 専門医・認定医
- 5 診療に対するモットー & 自己紹介 など



① 医師

② 坂堂 美央子 (はんだう みおこ)

③ 産婦人科一般

④ 産婦人科学会専門医・癌治療認定医

⑤ 名古屋第一赤十字病院より来ました、坂堂と申します。3ヶ月と短い期間ですが、高山の医療に少しでも貢献できるよう精進したいと思います。よろしく願いいたします。

退任医師

産婦人科医師 島岡 竜一 10月31日付 産婦人科部長 脇田 勝次 12月31日付
産婦人科医師 柵木 善旭 12月31日付

研修・講演・勉強会のご案内

- ・「第5回 地域連携講演会・意見交換会」 H28年 2月20日(土)16:00より ひだホテルプラザ
 - ・「第170回 飛騨臨床医会」 H28年 3月4日(金)18:45より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
 - ・「平成27年度第2回 医療介護福祉従事者を対象とした地域医療介護研修会」
H28年 3月12日(土)14:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
 - ・「地域連携症例検討会」 H28年 3月23日(水)19:30より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ※詳細は、追ってご案内いたします。

平成27年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を11月18日(水)に開催いたしました。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績について報告をいたしました。

又、柴田内科部長より 内科の現状—糖尿病治療の考え方—の演題でミニレクチャーが行われました。

意見交換では、主に地域包括ケア病棟、医療機関と在宅医療の連携について委員の方からご意見を頂きました。

編集後記

明けましておめでとうございます。私は地域連携課に勤務している事務の中家と申します。

日々開業医の先生方、看護師さん、事務員さんには連絡や調整等ご協力を頂き、深く感謝しております。ありがとうございます。

2025年問題を受け、医療・福祉の現場では益々「地域」や「連携」といったキーワードが重要視されることと思います。今後とも変わらぬご指導、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

地域連携課 中家 友美



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ http://www.takayama.jrc.or.jp/